



# 自治体・企業におけるテロ対策の事例研究

—イスラム過激派組織のテロと北朝鮮特殊部隊等のゲリラ等を分析し、対策を考察する—

軍事アナリスト（軍事・情報戦略研究所長） 西村金一

## 1. イスラム過激派組織のテロの教訓

日本国内においても、イスラム過激派組織によるテロの可能性が出てきた。これらのテロに対処するためには、これまで世界で起きたテロの実態から見えてくる教訓を知ることと、今後発生する可能性があるテロ、特に武器の性能とその対策を知る必要がある。

この際、近年テロに遭遇したフランス、ドイツのテロ対策の実情、ナイジェリアの警備の問題点を提供する。

### (1) 新たなテロ脅威の特色は

テロの様相が変化している

- 戦場で起きていることが、平和な都市で起こっている  
兵器が使用されている
- 今風に言うと、戦場場面を切り取って
  - ・平和的な都市にコピペしているようなもの
  - ・そこで、テロリスト達が、無防備な人々に乱射している
- 一旦、テロリストを屋内に入れてしまうと、多大な被害が発生する
- ひとたびテロが発生すると、治安機関が出動する前に、多くの被害が発生する

### (2) 過去のテロ事案の問題点と教訓

—参考になる6つ事案の分析—

- ① 1996年、在ペルー日本大使公邸占拠事件
- ② 2013年、アルジェリア天然ガス施設襲撃事件  
ナイジェリアにおける警備の問題点  
ブルキナファソで、フランスの情報収集例
- ③ 2015年、パリ「シャルリー・エブド」社襲撃事件

④ 2015年、チュニジア、バルド国立博物館襲撃事件(自分の命を守るには)

⑤ 2015年、パリ同時多発テロ + 2016年ダッカ・レストラン襲撃事件  
パリのテロ対策

⑥ 2016年、ベルリン等の車両テロ  
ドイツの市場のテロ対策

### (3) 今後予想される IS の新たな脅威は

今後、IS は、保有する兵器の中から日本に持ち込める兵器を使用して、テロを実行する可能性がある。IS は、対戦車ロケットや携帯地対空ミサイルを所有しており、日本にも持ち込むことが可能だ。

IS が保有する兵器の中から、日本に持ち込める兵器を使用すると

- 数個戦闘チームを編成
- 対戦車ロケット、対戦車ミサイルを使用したテロ
- 携帯地対空ミサイルによるテロ
- 化学剤（サリン、VX ガス、マスタードガス）散布によるテロ

参考資料：

- ①『自衛隊は IS の脅威とどう戦うのか』-イスラム過激派の軍事的脅威にどう立ち向かうか（祥伝社）
- ②IS は将来、日本でどのようなテロを起こすのか（その1）（その2）VAN 番 2016 年 4 月号、2016 年 5 月号

## 2. 北朝鮮軍特殊部隊と作業員

テロの脅威は、主にイスラム過激派組織によるものがほとんどだと考えていたが、北朝鮮の核・ミサイルの開発によって、北朝鮮と米国の緊張状態が高まってきた。もし、米軍が北朝鮮に対して、金正恩殺害作戦やミサイル攻撃を行う事態になると、日本に対して、弾道ミサイル攻撃の他に、特殊部隊等による潜入と襲撃の可能性が高くなる。そのため、北朝鮮の軍勢力と特殊部隊について簡単に解説する。

(1) 空軍・海軍が戦うとどうなるか？

(2) 地上軍の攻撃能力は

地上軍の長射程砲やロケット攻撃は、どうなるのか

(3) 日本への特殊部隊の作戦

日本・韓国で工作（テロ）を行うのは、作戦部と特殊部隊

どうやって来るのか。日本への潜入要領は、いくつかある

日本への潜入後は、何をするのか

化学兵器で攻撃すると

使用される可能性があるマスタードとは、どのようなものか

弾道ミサイルに化学兵器が搭載されていた場合の被害

(4) 最近、北朝鮮から漂流してくる漁船は、工作船か？

まとめ

参考資料：「詳解 北朝鮮の実態」（原書房）